

「トライアドベンチャーズキャンプin大雪」

★事業の概要★

事業のねらい

十勝岳連峰周辺の恵まれた自然環境を生かした自然体験活動を通して、豊かな人間性や社会性、たくましい心と体を育み、次世代のリーダーを担う青少年の育成を行う。

期 日

平成23年 8月 7日(日) ~ 8月13日(土)

会 場

国立大雪青少年交流の家・十勝岳連峰・どんころ野外学校

対 象 者

中学生 高校生

参加者数・参加集人員

20名(参加者内訳:中学生 6人、高校生 14人):20名

講 師

目黒義重氏(NPO法人どんころ野外学校 理事長)
金村孔介氏(NPO法人どんころ野外学校 登山ガイド)
国立大雪青少年交流の家職員

日 程

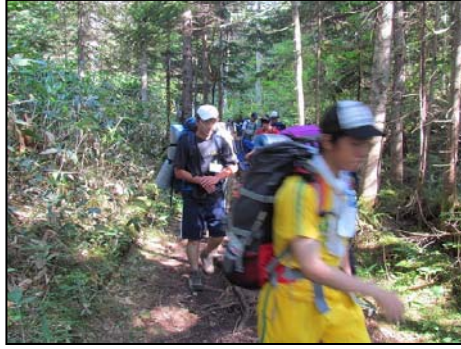
〈午 前〉			〈午 後〉			〈夜 間〉					
		受付	開会式	仲間づくり	つどい	夕食	チームづくり	入浴	休憩	就寝	
つどい	朝食	登山に向けて (装備について)	昼食	登山に向けて (歩行練習)	つどい	夕食	コース確認 目標設定	入浴	休憩	就寝	
つどい	朝食	縦走登山	昼食	縦走登山		夕食	山中泊				
朝食		縦走登山	昼食	所到着	後片付け	つどい	夕食	入浴・休憩・就寝			
つどい	朝食	出発準備・移動	昼食	野営体験		夕食	星空観察		休憩	就寝	
朝食	スプラッシュハイク	五右衛門風呂体験	昼食	移動・所到着	後片付け	つどい	夕食	ラストナイト ~たき火~	入浴	休憩	就寝
つどい	朝食	フィードバック&ゴー	昼食	解散							

★プログラム紹介★



仲間づくり

仲間づくりの活動を中心に参加者やスタッフの心的距離を縮めながら、グループとしての団結力を高めた。



登山に向けて

登山に必要な知識や技術を身につける実習を受けるとともに、コース確認や目標設定を行い、登山への意欲を高めた。



登山

十勝岳連峰の山々をめぐる縦走を予定していたが、悪天候のため最高峰十勝岳登頂を目指す日帰り登山を行った。



野営体験

南富良野町にあるどんころ野外学校に舞台を移し、沢や森などが広がるフィールドでのキャンプに挑戦した。



スプラッシュハイク

講師の金村氏の案内で、沢を豪快に水しぶきをあげながら歩いて下るスプラッシュハイクを行った。



フィードバック&ゴー

1週間の冒険のスライドを見たり、グループで話し合ったり、一人でふりかえった後、感じたことを発表しあった。

企画・運営のポイント

- ① 新しい「水辺」のプログラムや登山プログラムを開発するため、専門的なガイドに講師を務めていただき、プログラム開発及び安全管理に努めた。また、交流の家職員の事前下見やトレーニングも充実させることで当日を安全に運営できた。
- ② ふりかえりや、準備の時間を十分とることで、参加者が心身ともに安全に1週間を過ごせ、プログラムが進むよう工夫した。キャンプ終盤には1週間の冒険を見つめなおす時間を充実させ、心の整理ができるよう配慮した。

事業を終えて(成果・課題)

- ① 登山や野営をゆとりを持って体験できるよう、テント設営や荷物を背負っての歩行訓練などの事前練習の時間や、入念に準備できる時間を設定し、参加者の様子を確認することで、円滑な事業運営と心身の安全管理を図ることができた。
- ② 登山やスプラッシュハイク等の冒険プログラムと、仲間づくりやふりかえり等のプログラムをバランスよく組むことで、参加者の気づきや学習を促進するキャンプを行うことができた。
- ③ 今回は外部機関（どんころ野外学校）と連携・協力することで成果をあげることができた。今後も外部の専門機関に協力を求め、交流の家のフィールドでも新しいプログラム（登山、水辺等）を展開できるように、交流の家職員のスキルアップを図る必要がある。

今後の方向性

学習指導要領に即した、登山プログラムと水辺でのプログラム開発を、外部の専門機関と連携しながら継続して進める。